

用

緊急電報

次長宛

旭參電第一五號(電話十月十日配布欠分)

四光部隊八十一月十日桂林ノ攻撃ヲ開始スベシ

九日拂曉ヨリ砲兵ノ一部ハ桂林南部隊要點ヲ射撃

シ敵ヲ牽制スベシ 又所要ニ應シ象鼻山附近敵

砲兵ヲ制壓シ官部隊ノ戰鬥ニ協力スベシ

五作戰地境ヲ尤ノ如ク延伸ス(一飛行師團ノ桂林偵

察圖ニ據ル)

官部隊 光部隊間

桂林城東南角(小石山對岸)―桂林ヲ南北ニ分断

(裏)

昭和一九一〇年
二〇四〇〇番
二〇六二五番
出

旭部隊參謀長

末文々し

スル無名池東南端（象鼻山北約三〇〇米）——洞鏡明池
 中央桂南路橋梁ヲ連又ル線ノ線上ハ右ニ屬ス
 光部隊ハ廣楠ノ間桂林ヲ南北ニ分断セル 無名
 池西端ヨリ同無名池中央桂南路橋梁ヲ連又ル線
 線上ハ左ニ屬ス
 廣部隊 宮部隊間
 桂林東北端（鐵道引込線末端）——桂江——同河
 東南方桂江中洲北端——同地西南約三〇〇米丁字
 路——同地ヨリ東西ニ通ズル道路——旭川道路ト桂北
 路（桂林北門ヨリ南北ニ通ズル道路）トノ丁字路——
 ——中北路——中南路（桂林ヲ東西ニ分断スル幹線路）
 ——桂林ヲ南北ニ分断スル無名池中央桂南路橋梁

2357 719

録

日誌

特別緊急電報

二一〇一五五發
昭和一九二一
二一〇一五五著
二一〇一五五提出
二一〇一五五受付

通電先次長統支總漢口南京南集

旭部隊參謀長

呂武集櫻隸下

旭參電第六五號

一南集團ノ指揮下ニ入ル鹿部隊海福部隊八本

十日十時柳州城ヲ完全ニ攻略セリ

二軍八本十日十二時桂林城ヲ攻略セリ

(終)

用

傍受電報

一一一〇

一一一〇〇〇

一一一〇

一一一〇〇〇

昭和一九一二年十一月十日九時(電報班受付)

次長宛

旭部隊參謀長

旭放送第一五〇號

第二課

十一月十日

一官ハ省政府、體育場ヲ奪取シ、洞秀峰、風洞山及體育場兩側ヲ
攻中

二廣ハ本十日十一時二十分北門ヲ占領セリ

三光ハ本十日九時西門ニ突入セリ、當方面ノ敵ハ續々投降中

四廣ハ大坪部隊ヲ以テ九日十二時柳城ヲ攻略セリ

(秘)

721

2359

桂林固守ノ敵ノ一部ハ九日夜以來老人山南側附近ヨリ脱出

ヲ企圖シアリ

六 敵空軍ハ七日柳州飛行場ヨリ撤退セリ、白崇禧ハ張發奎ト共ニ

八 日宜山縣ニ在リ

南陽作戦總指揮官周碁晃ハ六日柳州ニ在リタリ

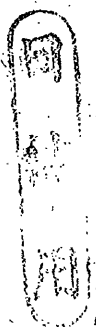
七 南陽ノ指揮ニ入リタル海福部隊ハ本十日十時柳州城ヲ攻略セ

リ

(追加)

八 軍ハ本十日十二時桂林城ヲ攻略セリ

(落)



緊急電報

昭和一九一〇

二二〇三五番發二二〇四五提出

旭部隊參謀長

參考 次長 支(漢口南京)南阜山

通電先 統

旭參電第六二號

一鹿ノ海福部隊(南集團配屬)ハ本十日八時四

十分柳州城ニ突入シ十時之ヲ完全ニ攻略セリ

二鹿部隊ノ狀況次ノ如シ

ハ大坪部隊ハ九日十二時柳州城ヲ完全ニ攻略セリ

ハ戰鬥司令所ハ本十日朝白沙洲南方三軒七里坪

三下リ

(終)

軍事極秘

傍受電報

昭和一九、二、二

十一月二日八時五分(電報班受付)

次 長 宛

旭 隊 參 謀 長

旭放送第一四二號

(前項未著其ノ三ヨリ)

「蜂家村」(「桂林」北七軒)進出「田幡」部隊「古賀」甲隊後
 方ノ「一語不明」(「山崎」部隊ノ大部ハ「大溶口」以下五語脱)
 「一官」ハ「桂林」東側ニアリ
 「鹿」ハ三十一日夕「大坪」部隊ヲ以テ「馬面圩」(「桂林」南々
 西「一五軒」附近ノ敵ヲ攻撃中、「海福」部隊ハ「良豐圩」(「東南
 五軒」ヨリ「羅鋪圩」(「西西南」一五軒)ニ向ヒ突進中
 「一光」ハ右縦隊ノ先遣隊ヲ以テ本朝「恭城」西北ニ、「山」ハ右
 縦隊第一梯團ヲ以テ三十一日十一時頃「二塘墟」(「平樂」東々
 北「一語不明」一軒)ニ進出セリ
 「一平樂」ニハ第二〇軍陣地ヲ占領シアリ第三七軍第二六軍ハ
 三十一日夜移動シアルモノノ如シ
 第七九軍方面ハ不明ナルモ「桂林」近クニ於テ反抗ヲ企圖シアル
 モノノ如シ

(以下未著)

2363

軍事極秘

目用

傍受電報

次長宛

旭放送第一五一號

旭部隊參謀長

昭和一九、一一、一二

十一月十二日十五時十七分(電報班受付)

十一月十一日

一軍主力ハ十日十二時桂林城ヲ攻略セリ

二南集團配屬ノ海福部隊ハ十日十時「中柳州」ヲ、神部隊ハ同日十

三時南部「柳州」ヲ攻略セリ

三桂林守備ノ敵ハ續々投降シ其ノ數一萬ニ達スル見込

鹵蕪火砲又多數ノ見込

四柳州ヲ守備セル敵ハ重砲ヲ有スル第二六軍、第九三軍、第三七軍

等ニシテ海福、神兩部隊ノ急襲猛攻ニ依リ潰走セリ

(終)

725

2364



至急電報

昭和二十九、一、一一、二

參考次長 支總 隼關 旭部隊參謀長

通電先 統

旭參電第九四號

光部隊之戰況

一、橋部隊(步兵第六十八聯隊)先遣大隊八十日十五時柳州飛行場ヲ占領シ南集團第四百師團步兵第百六十一聯隊ト連絡成レリ
目下部隊主力ハ引續キ四方博高地流山墟ニ

(裏)

向ヒ追撃中

二松部隊（歩兵第六聯隊）六十日十三時和表村
附近ニ於テ渡河ヲ完了シ引續キ飛行場附近
ヲ經テ流山壙ニ向ヒ追撃中

（終）

727

2366

日
月

至急電報

昭和一九一一三

二九一〇〇發
三二八五〇受
三〇一〇〇提出

旭部隊參謀長

參考次長支(漢口、南京)南軍

通電先統

旭參電第三九號(電註、遲延狀況照會中)

一軍八本九日早朝ヨリ隼部隊ト協力、下ニ

桂林ノ攻撃ヲ開始シ、飯島部隊小柴部隊

ハ基地以南ニ推進シ、桂江敵前渡河ニ成

功ス。目下該部隊ハ一部ヲ以テ警備シ

之ヲ確保主力ヲ以テ伏波山方向ニ戦果ヲ廣

張中

(裏)

廣部隊ハ八時四十分一齊ニ攻撃ヲ開始シ目
下其第一線部隊ヲ以テ敵ノ守備陣地
ニ突入戦闘中

戦車部隊ハ十一時頃北門北約二〇〇米
附近ニ進出セリ

二鹿ハ七日大坪部隊ノ一部ヲ以テ東泉鎮(柳

州北ニ五料)ニ進出主力ヲ以テ鹿寨墟

竝ニ黃兔街ニ於テ渡河ヲ準備中 九日朝

戦闘司令所ヲ中渡西ニ料ニ進出ス

三八八日夕橋部隊ヲ以テ導江杆(柳州泉

三二料)ニ於テ柳江ヲ渡河中 松山部隊ハ

三門江(柳州東東北方一口料)ニ於テ柳江ヲ渡

河ヲ準備中
松部隊ハ神部隊ニ引續キ柳州附近ニ於
ケル洛清河ヲ渡河中
(終)

730

2369

日
用

至急電報

昭和一九二一、一三

二、九、二、三、三〇發
一、三、三、七著
一、一、三、二、二、五〇受付
一、三、〇、四、三〇提出

旭部隊 參謀長

參 考 以長、支南、櫻集(漢口、衡陽)

通電先統

旭參電第三三號(電註一部未著ナルモ取敢不配布ス)

十一月八日朝迄ノ戦況

一 桂林攻撃準備ハ各部隊ヲ進接中ニシテ各部隊

ハ八日朝迄ノ態勢ニアリ

(1) 廣ハ野溝部隊ヲ以テ余家莊、青龍山、東南

麓古賀部隊ヲ以テ北冲南側、張家中ノ線

(2) 「一語不明」ハ七日夕迄七里山ヲ完全ニ占領

目下月牙山ヲ攻撃中

(3) 光川先遣隊ヲ以テ將軍橋ノ線ニ進出主力ハ

北自朝連ニ桂林附近ニ進出スル豫定ナリ

針川六日夕ニ仁村(桂林西西南方四料)ヲ

進出セリ

義寧方面ニ派遣セル搜索中隊ハ五日義寧ヲ

奪取セリ

二鹿川第九三軍一語不明 新編第八、一九師ヲ

撃滅シ第一口師ニ大ナル打撃ヲ與ヘ六日夕

「五語不明」ノ線ニ七日夕東泉鎮辺ニ鹿寨墟附

近ニ進出セリ

山ハ四日以來修仁西方ノ隘路降下側面セル

二口軍ハ軍部第一三三 第一三四師新編第二
口師ノ夫々主力ヲ

(電詳以下一通未著)

所在ノ敵ヲ撃破シ前進中ニシテ八日正午頃戰
鬪司令所ハ脚板洲(柳州東北方三ニ料)ニ進
出セリ

(終)



至急電報

昭和一九、一一、一三
一一一四〇發
一一三〇七四〇受付
一一三〇九三〇提出
旭部隊參謀長

通電先 次長、總參謀長、統、南、隼、櫻

旭參電第八八號

柳州攻路ヲ完了スル迄一時南隼團ノ指揮下ニ入りタル山部隊ハ神

部隊ヲ以テ九日朝柳州外郭陣地ヲ奪取シ本十日十三時南部柳州

馬鞍山ヲ占領セリ

又橋一語不明一部隊ハ本十日早朝四方博（柳州南一五軒）松部

隊ヲ以テ和表村（東南九軒）附近ヲ渡河中ニシテ爾後山部隊ハ一

部ヲ柳州附近ニ殘置シ主力ヲ以テ水磨嶺（柳州西北方一二軒）柳江

南岸（ヲ）經テ流山坡（柳城西南方一四軒）ニ向ヒ突進ヲ企圖シア

（終）

734

2373

下₁ニ於ケル來變ハ「アキヤブ」地區ヲ除キ八三四機ニシテア
 キヤブ」地區ヲ六〇〇機ト推定セバ延一四七二機トナリ中旬
 一〇五〇機ニ比シ約四割ノ増加トナリ雨ト活況ヲ呈シ更ニ上₂

二至リ活況ヲ加ヘアリ
 下₁ニ於ケル來變地區別來變狀況次ノ如シ
 地區別來變機數
 中₁

「ミット」地區	三四七	一二二
「メイシヨ」地區	一五五	九二
「カレク」地區	一三〇	一五二
「エナシヨ」地區	六〇〇 (推定)	五五五
「アキヤブ」地區	一七〇	七二
西南「ビルマ」地區	四二	一八
「ラングーン」地區	二四	二三
「モトルメン」地區		

2374



軍事機密

傍受電報

次長宛

旭放送第一五四號

十一月十三日

旭部隊參謀長

昭和一九二二一四

二二三五。發二二四一八。受付
一四。六。著。提出

一、山、第三七軍獨立工兵第八團主力ヲ撃碎シ

流山墟ニ向ヒ追撃中十二日朝神部隊ハ洛滿墟

(流山墟東南九三料)ニ三語不明レ後方橋部隊ハ

水靈(東南二三料)ニ進出ス

二、鹿、大坪部隊ハ十一日夜半神遊湖ヲ渡斷シ

潰走中ノ敵大軍ニ對シ打撃ヲ與ヘタリ

三、既報ノ外宣山ニハ白崇禧、第十一集團軍部ノ

(裏)

一部アリ

四、第九三軍ハ四散セルモノ如ク軍長ハ道岸江墟（維容
東南ニ料）一部ハ十一日龍江（宣山東北一五料支流
附近）新編第一九師ハ十二日榴江縣附近ニ在リ
五、第三五集團軍司令ハ第六二軍ハ柳州一、大塘墟
「六語不明」道ヲ第六四軍ハ大塘墟一、遷江道ヲ
晝夜兼行徹底的ニ破壊スベシト命令セリ
尚獨立工兵第八團第三營ハ十日大塘墟ニアリ

(終)

2376

736

第三課

軍事極秘

日誌用

至急電報

通電先次長

參考集

旭參電第五六號(電註) 通信用し再電、為遅延ス
発電日時ハ兩電発電時ナリ

軍ハ逐次柳州附近ニ進出中ナル鹿及山部隊ヲシテ南

集團ト協同敵ヲ捕獲殲滅スベク左ノ如ク部署ス

一 軍ハ突進中ナル鹿及山部隊ノ一部ヲ南集團長ノ指揮

下ニ入ラシメ直接柳州攻略ニ参加セシム

二 鹿部隊ノ主力ヲ以テ宜山縣附近ニ於テ山部隊ノ主力

ヲ以テ赤水口及同地南方地區ニ於テ敵ノ退路ヲ

遮断セシム

(終)

737

旭部隊 參謀長

二五〇〇〇著 二二五二〇五〇提出

昭和一九一一一五

2377

參謀は手榴彈で足をやられた。これは何かと云へば非常な激戦です。砲彈が飛ぶのは普通の時
時で手榴彈は十五米で行く。司令官は非常な激戦をやつたんだといふことが判る。死傷
者は夕方に約一千名出た。シヨホルムルの上で隅田川の川開きのやうだと見惚れてゐたが
一千名の死傷者が出てゐたのだ。沿道砲を飛ばして来る途中敵の遺棄死体が累々と重なり
砲兵車輛が目茶目茶に轉つて居るが敵の行は一箇所も壊れてゐない。これはこれまでにな
現象だ。大いでテンガー飛行場の敵兵舎を見るとスリーブがある、パンが置いてある、整然と
して食卓準備をしてゐる。少しも片づけずにおいてをる。如何に慌てたかかそれで判る。敵
は完全に奇襲され裏を搔かれた。敵の主陣地は津田のセレター貨港か、橋の對岸を通つて
ブキテマ高地の線——この正面が警戒嚴重であつてこれを突破するにどうすればいゝかとい
ふのがこの攻撃に於ける最難點だつた。砲兵はなかなか來なかつた。歩兵だけで堅固な陣地に向
つては勝味がない。砲兵を待つて攻撃するのが定石だ。このやうに定石通り戦闘するかどう
かといふのはテンガー飛行場に於て決しなければならぬ重大問題で、師團長に會ひに行つ
て見ると河の線の抵抗が極めて頑強で一回二回敵は窓硝子を撃つた。まあ當りぬだらうと
思つた、三回目に第五師團が渡つて來ると初めて敵はムクムク顔を出してト、力から

第二課

目録用

至急電報

昭和一九一一一五
二一五三一五
二一五三三
二一五三六
二一五三九
二一五四二
二一五四五
二一五四八
二一五五一
二一五五四
二一五五七
二一五六〇
二一五六三
二一五六六
二一五六九
二一五七二
二一五七五
二一五七八
二一五八一
二一五八四
二一五八七
二一五九〇
二一五九三
二一五九六
二一五九九
二一六〇二
二一六〇五
二一六〇八
二一六一一
二一六一四
二一六一七
二一六二〇
二一六二三
二一六二六
二一六二九
二一六三二
二一六三五
二一六三八
二一六四一
二一六四四
二一六四七
二一六五〇
二一六五三
二一六五六
二一六五九
二一六六二
二一六六五
二一六六八
二一六七一
二一六七四
二一六七七
二一六八〇
二一六八三
二一六八六
二一六八九
二一七〇二
二一七〇五
二一七〇八
二一七一
二一七一四
二一七一七
二一七二〇
二一七二三
二一七二六
二一七二九
二一七三二
二一七三五
二一七三八
二一七四一
二一七四四
二一七四七
二一七五〇
二一七五三
二一七五六
二一七五九
二一七六二
二一七六五
二一七六八
二一七七一
二一七七四
二一七七七
二一七八〇
二一七八三
二一七八六
二一七八九
二一七九二
二一七九五
二一七九八
二一八〇一
二一八〇四
二一八〇七
二一八一〇
二一八一三
二一八一六
二一八一九
二一八二二
二一八二五
二一八二八
二一八三一
二一八三四
二一八三七
二一八四〇
二一八四三
二一八四六
二一八四九
二一八五二
二一八五五
二一八五八
二一八六一
二一八六四
二一八六七
二一八七〇
二一八七三
二一八七六
二一八七九
二一八八二
二一八八五
二一八八八
二一八九一
二一八九四
二一八九七
二一九〇〇
二一九〇三
二一九〇六
二一九〇九
二一九一二
二一九一五
二一九一八
二一九二一
二一九二四
二一九二七
二一九三〇
二一九三三
二一九三六
二一九三九
二一九四二
二一九四五
二一九四八
二一九五一
二一九五四
二一九五七
二一九六〇
二一九六三
二一九六六
二一九六九
二一九七二
二一九七五
二一九七八
二一九八一
二一九八四
二一九八七
二一九九〇
二一九九三
二一九九六
二一九九九
二二〇〇二
二二〇〇五
二二〇〇八
二二〇一一
二二〇一四
二二〇一七
二二〇二〇
二二〇二三
二二〇二六
二二〇二九
二二〇三二
二二〇三五
二二〇三八
二二〇四一
二二〇四四
二二〇四七
二二〇五〇
二二〇五三
二二〇五六
二二〇五九
二二〇六二
二二〇六五
二二〇六八
二二〇七一
二二〇七四
二二〇七七
二二〇八〇
二二〇八三
二二〇八六
二二〇八九
二二〇九二
二二〇九五
二二〇九八
二二一〇一
二二一〇四
二二一〇七
二二一〇〇
二二一〇三
二二一〇六
二二一〇九
二二一一二
二二一一五
二二一一八
二二一二一
二二一二四
二二一二七
二二一二〇
二二一二三
二二一二六
二二一二九
二二一三二
二二一三五
二二一三八
二二一四一
二二一四四
二二一四七
二二一五〇
二二一五三
二二一五六
二二一五九
二二一六二
二二一六五
二二一六八
二二一七一
二二一七四
二二一七七
二二一八〇
二二一八三
二二一八六
二二一八九
二二二〇二
二二二〇五
二二二〇八
二二二一一
二二二一四
二二二一七
二二二二〇
二二二二三
二二二二六
二二二二九
二二二三二
二二二三五
二二二三八
二二二四一
二二二四四
二二二四七
二二二五〇
二二二五三
二二二五六
二二二五九
二二二六二
二二二六五
二二二六八
二二二七一
二二二七四
二二二七七
二二二八〇
二二二八三
二二二八六
二二二八九
二二三〇二
二二三〇五
二二三〇八
二二三一
二二三一四
二二三一七
二二三二〇
二二三二三
二二三二六
二二三二九
二二三三二
二二三三五
二二三三八
二二三四一
二二三四四
二二三四七
二二三五〇
二二三五三
二二三五六
二二三五九
二二三六二
二二三六五
二二三六八
二二三七一
二二三七四
二二三七七
二二三八〇
二二三八三
二二三八六
二二三八九
二二三九二
二二三九五
二二三九八
二二四〇一
二二四〇四
二二四〇七
二二四一〇
二二四一三
二二四一六
二二四一九
二二四二二
二二四二五
二二四二八
二二四三一
二二四三四
二二四三七
二二四四〇
二二四四三
二二四四六
二二四四九
二二四五二
二二四五五
二二四五八
二二四六一
二二四六四
二二四六七
二二四七〇
二二四七三
二二四七六
二二四七九
二二四八二
二二四八五
二二四八八
二二四九一
二二四九四
二二四九七
二二五〇〇
二二五〇三
二二五〇六
二二五〇九
二二五一二
二二五一五
二二五一八
二二五二一
二二五二四
二二五二七
二二五三〇
二二五三三
二二五三六
二二五三九
二二五四二
二二五四五
二二五四八
二二五五一
二二五五四
二二五五七
二二五六〇
二二五六三
二二五六六
二二五六九
二二五七二
二二五七五
二二五七八
二二五八一
二二五八四
二二五八七
二二五九〇
二二五九三
二二五九六
二二五九九
二二六〇二
二二六〇五
二二六〇八
二二六一
二二六一四
二二六一七
二二六二〇
二二六二三
二二六二六
二二六二九
二二六三二
二二六三五
二二六三八
二二六四一
二二六四四
二二六四七
二二六五〇
二二六五三
二二六五六
二二六五九
二二六六二
二二六六五
二二六六八
二二六七一
二二六七四
二二六七七
二二七八〇
二二七八三
二二七八六
二二七八九
二二八九二
二二八九五
二二八九八
二二九〇一
二二九〇四
二二九〇七
二二九一〇
二二九一三
二二九一六
二二九一九
二二九二二
二二九二五
二二九二八
二二九三一
二二九三四
二二九三七
二二九四〇
二二九四三
二二九四六
二二九四九
二二九五二
二二九五五
二二九五八
二二九六一
二二九六四
二二九六七
二二九七〇
二二九七三
二二九七六
二二九七九
二二九八二
二二九八五
二二九八八
二二九九一
二二九九四
二二九九七
二三〇〇〇

参考 次長 支(漢口) 南 軍

通電先 統

旭 参 留 第一 二 九 號

一 山 部隊 状 况

二 山 部隊 八 九 日 敵 ヲ 撃 破 シ 本 十 二 日 朔 各 滿 墟 (柳

州 西 方 ニ 五 料) ニ 進 出 ス

三 山 橋 部隊 ハ 拉 堡 街 南 北 ニ 於 テ 頑 強 ニ 抵 抗 ス ル 敵 ヲ

(裏)

突破之ヲ追撃シ十二日八時水鏡附近ニ進出ス

敵 第三七軍第九五師及獨立工兵第八團及第四

一軍ハ一部約入

(3) 松部隊、神部隊ニ續行追撃中

(4) 戦闘可令所ハ十二日未明龍飛(柳州西)ノ料

ニ到着十九時出發 洛滿墟ニ向ヒ前進ス

(5) 山部隊當面ノ敵ハ步步ノ抵抗ヲ試ミツノ西方ニ

後退中

第三七軍及獨立工兵第八團ハ十日早朝柳州ヨリ

西方(宜山縣)ニ後退セリ(俘虜報)

終



日
本
海
軍

至急官報

一五二〇二〇
一六〇二一九
一六一〇二〇
一三四五
受付
提出

昭和一九、一一、一六

旭
集
團
參
謀
課
長

通電先 次長、支(漢口、南京)、俣、關東軍、第一、第二飛行團

旭參電第一五六號

宜ハ宜山縣南方地區ヲ西北方ニ退却中ノ敵ヲ捕捉殲滅スベク深ク河
地南丹地區ニ突進シ會戰ノ成果ヲ全ウスベク十四日十六時大要左ノ

如ク部署セリ

一三營(宜山縣東三五軒)南北ノ線以東ノ地區ニ十三日夕追撃中ナ

ル師部隊ヲシテ引取キ南丹及河地地區ニ挺進追撃シ河地、金城江
(裏へ)

740

8888

2381

及德勝附近ニ於テ賞賜ニ迎ズル敵ノ退路ヲ遮断シテ營面ノ敵ヲ捕
捉逐滅セシム

二柳州西方地區西方ニ追逐中ナル山部隊ヲシテ宜山縣及其ノ西南方

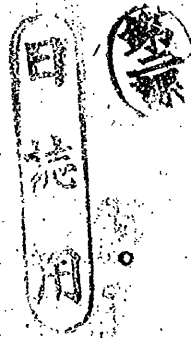
地區ニ突進シ宜山縣懷遠、牛崗口（宜山縣西南三五軒）附近ニ於

テ敵ヲ拘引南集團ト策應シテ營面ノ敵ヲ捕捉逐滅セシム

「二語不明」柳城ニハ所安ニ應ジ一部ヲ殘置シテ南集團ニ協力シ

之ヲ確保セシム

（終）



緊急電報

11100100發 11100600受付
111005100着 111009500提出
昭和一九、一一、一九

參 發 次長、支(獨口、南京)、南、統、軍(衡陽) 旭 部 隊 長
通電先 光、廣、宮

旭參電第一五號(電註) 一部既配布再電回答アリタルモノト會社再配布ス
未着部分ハ更ニ再電要求中

旭作命甲第二八八號(七日十六時)

- 一 敵ハ依然桂林ヲ固守シアリ
- 二 軍ハ速カニ桂林ヲ攻略セントス
- 三 眞官山崎各部隊ハ十一月九日拂曉ヨリ桂林攻撃ヲ開始スベシ
- 四 光部隊ハ十一月十日桂林ノ攻撃ヲ開始スベシ
- ノ一部ヲ以テ桂林南部隊ヲ射撃シ敵ヲ牽制スベシ又所要ニ應ジ
- 象鼻山附近ノ敵他兵ヲ制壓シ官部隊ノ戦鬪ニ協力スベシ

其作戦地境ヲ左ノ如ク延伸ス（一萬分ノ一桂林市街圖ニ據ル）富部
隊光部隊間桂林城東南角（象鼻山對岸）一桂林ヲ南北ニ分斷スル
無名池泉南端

（電註ノ以下一連未着）

桂林ヲ南北ニ分斷スル無名池西端ヨリ何無名池中央一桂林路一橋
梁ヲ起スル線路上ハ左ニ屬ス

（電註ノ以下一連未着）

中洲ノ北端一田地西南約三〇〇米丁字路一田地ヨリ東西ヲ通ズル
道路一該道路ト

(電註以下一通未著)

(桂林ヲ東西ニ分斷スル幹線路) | 桂林ヲ南北ニ分斷スル無名池中
央一桂南路一橋梁(市政府東南)ヲ連タル線トス
線上ハ右ニ屬ス
(終)



用

軍事極秘

緊急電報

二六

但部隊參謀長

2386

參考次長、總參謀長

通電先 統

旭參電第三九三號

二十四日現在 鹿部隊 河泚 西北方地區ヲ

部隊ハ黎明關東南方約一〇料附近ニ直行追撃

中ニシテ概テ獨山附近ニ於テ追撃ノ結束ヲ求メ

得ル見込

軍ハ獨山ニ進出セバ直チニ諸部隊ヲ反轉セシメ

内示セラレシムル能ハシキニ移行スル豫定

終

745



軍事極秘
用

緊急電報

昭和一九一二年
二月三日發
二月三日受付
旭部隊參謀長

通電先次長支總 統南集

旭參電第四五七號

一山鹿兩兵團ハ柳州攻略ニ引續キ約二週間ニ互
リ連續不斷ノ攻撃ヲ反復シ克ク敵機ノ跳梁
下ニ五口料ニ互ル岩山地帯ノ天嶮ヲ制シ部隊
糧食ノ缺乏ヲ克服シ遂ニ南丹及黎明關ヲ攻略
シ獨山ニ向ヒ突進中ナリ
二山部隊ハ廣西貴州省境ノ線ニ於テ嶮難ナル地
形ニ據リ頑強ニ抵抗スル第二七集團軍(第二〇
二)

(裏)

軍第二六軍第九三軍、各一部、及第七六軍ノ一部ヲ二十四日以來力攻遂ニ快速部隊ヲ以テニ十七日十五時黎明關ヲ占領引續キ獨山ニ向ヒ突進中

三鹿部隊ハ岩山地帯ノ天嶮ニ據リ頑強ナル正雨ノ抵抗ニ由リ測撃尾撃等ノ執拗ナル敵ノ抵抗ヲ排撃シ二十三日以降南丹附近ノ敵ヲ攻撃中ナリシガ遂ニ第九七第九八第七六軍各主力ヲ撃摧シ二十八日朝南丹ヲ占領シ引續キ獨山ニ向ヒ突進中

(終)

日誌用

第二課

緊急電報

三三三三三三

昭和三九一三三

旭集團參謀長

通電先次長總參謀長統率南

旭參電第五九號

鹿部隊ハ二日十二時三十分獨山ヲ占領セリ

軍、作戰ノ目的ヲ達成セルヲ以テ速カニ既定ノ

行動ニ移ラントス

終

第三報

至急電報

次長宛

旭部隊參謀長

一三七一〇三〇發

一八一二一〇受付

昭和一九二二・一〇

旭參電第六〇九號(電註、一部未着ナルモ取敢ズ配布ス)

一山・團部隊ハ豫定ノ如ク十二月四日夕獨山附近ヨリ反轉ヲ開始シ五日夕左ノ態勢ニ在リ

- (1) 山
 - (イ) 一語不明一部隊本部ヲ以テ堤衝兩七軒附近ニ前進中
 - (ロ) 元山部隊ハ永江附近ニ
 - (ハ) 宮川部隊ハ十七時本部ヲ以テ蔗村北ハ軒ヲ前進中
 - (ニ) 戰鬪司令部ハ十六時四十分社村六日夕小洛陽ニ前進ノ等
 - (ウ) 鹿
 - (イ) 海福部隊ハ上司、太平部隊ハ六築ヲ夫々二十時北方地區ニ前進セリ
 - (ロ) 工兵隊主力ハ公ヨリ以道ニ沿ヒ
- (電註、以下未着)



用

至急電報
 一三二二一三〇發所受
 一三二四
 〇九〇〇參電受
 〇九〇〇振出
 2391
 2392

通電先
 支長、支、統、呂、呂武集
 衛部
 參謀長

一機參電第四三號

櫻集國包報第一號

櫻集國十二月中旬ニ於ケル後方狀況

一陸路兵站線ニ於ケル輸送

- (1) 長沙、易俗河、間自動車四中隊 輸送日量約五〇噸
- (2) 易俗河、衡陽、間自動車〇中隊 輸送日量四〇噸
- (3) 衡陽、全縣、間自動車二三中隊 輸送日量二七噸

